

強度行動障害の理解⑤

困っていることの体験

この時間で学びたいこと

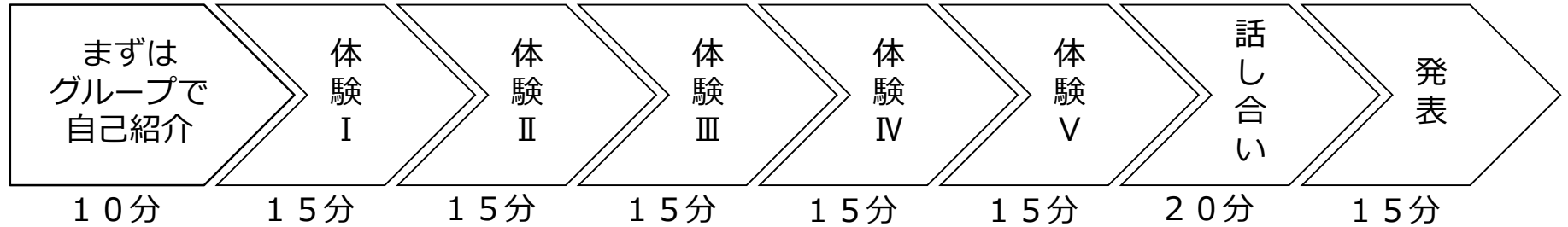
- 強度行動障害は本人が強い困惑を感じ、その解決策が見い出せないまま、なんとか抜け出そうともがいている状況と考えることもできます。
- この時間では、私たち支援者がどんな困惑を感じさせてしまっているのか、強度行動障害の方々の立場になって体験してみます。
- もちろん感じ方は人それぞれ違うと思いますが、自分たちの体験レベルよりもはるかに強い困惑を感じてこられた方々であるという思いを持ちながら研修を進めていければと思います。

それぞれの地域で実施するときに

指導者の方へ

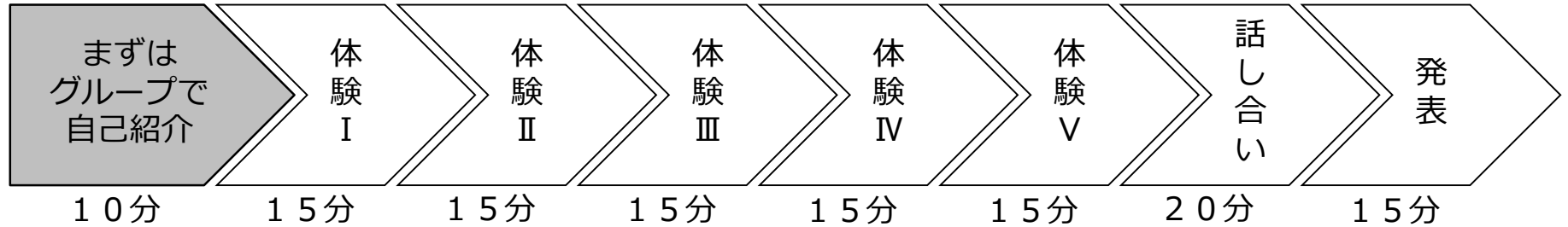
- ここで示している体験メニューは、「伝えられないもどかしさ」「意味のわからない苦痛」「見通しのもてない不安や恐怖」「情報処理の困難」「感覚の特異性」の5つから組み立てており、「障害特性の理解」の講義にあった7つの視点と連動させています。
- それぞれの地域で実施する際にも、これらの視点を意識した体験メニューを提供していただければと思います。
- 今回の研修では、できるだけ準備に労力をかけないですむようなメニューを示していますが、本人が困っているであろう体験メニューは、ここで示す他にもたくさん考えられます。それぞれのアイデアでよりよい研修の時間になるように工夫していただければと思います。

この時間の流れ



- まずグループ内での自己紹介を行い、少しでもお互いの距離を縮めます。
- 体験メニューは5パートあります。何を体験しようとしているのかを考えながら、積極的に参加しましょう。
- 途中で何を感じたか、数名に発表してもらおう場面もあります。
- 最後にグループメンバーで振り返りを行い、発表します。

まずはグループで自己紹介



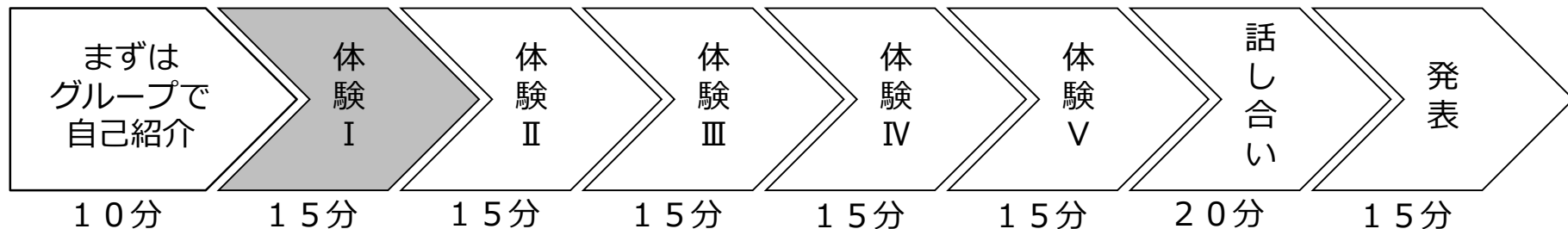
- まずはウォーミングアップ代わりにグループで自己紹介をしましょう。
- 伝えてほしいことは、「名前」「所属」の2つと「趣味（ひとつだけに絞ってください）」についてです。



「名前」「所属」は普通に伝えてください。ただし、趣味に関して伝える手段は「身振り」のみとします。伝え終わったら、他のグループメンバーに「伝わりましたか」と尋ねます。わかったグループメンバーは挙手をしてください。その後、自己紹介をした人は正解を発表し、自分が行った自己紹介についての感想を一言お願いします。

- また、次の方は前の方のいいところをひとつ言ってから（むりやりでも探します）自己紹介を始めます。最後の自己紹介者のいいところは、一番最初に自己紹介した人が行います。そこで終了です。
- この時間では、進行役やパフォーマンス役、発表役などが当たります。自己紹介順に自動的に役割を移していきます。
- 時間が余ったら、グループ内のさらなるフリーアイスブレイクに活用してください。

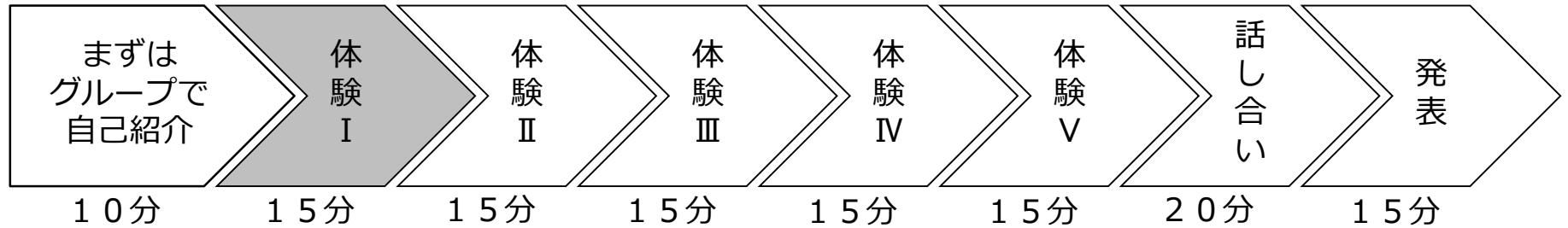
演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ①



- パフォーマンス役の人 1 名は前方に集まってください。
- この体験でのターゲットは、パフォーマンス役の人になります。
- グループのメンバーに伝えてほしいことがあります。声を出さずに指示書を読んでください。
- 伝える時に、言葉を話したり文字を書いたり（指文字も含む）唇を動かしたりしてはいけません。ジェスチャーゲームです。
- 途中で「一音だけ言っていいです（同じ一音）」と指示するかもしれません。「一単語だけ言っていいです（同じ一単語）」という指示があるかもしれません。でも、それに期待せず、必死に伝えましょう。

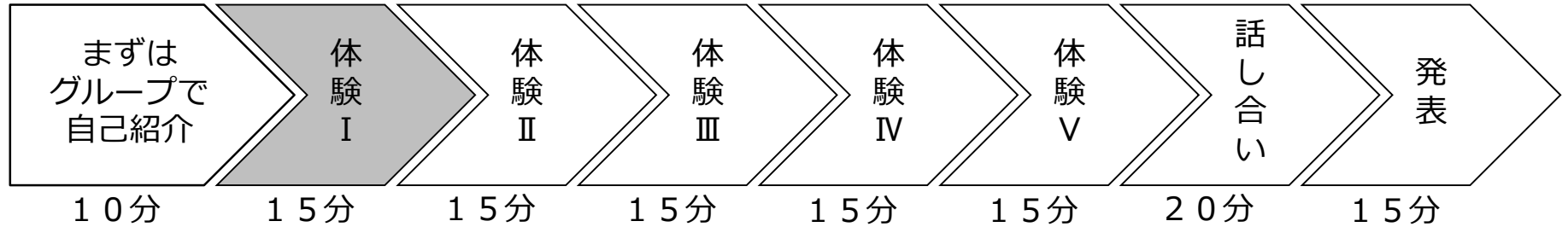


演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ②



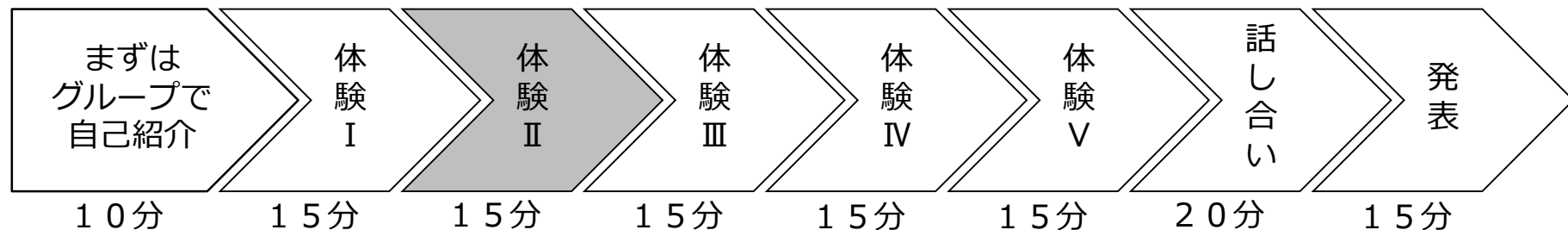
- 次のパフォーマンス役の人 1 名は前方に集まってください。同様のジェスチャーゲーム第 2 弾です。
- ただし、メンバーの方は「わかんない」「何?」「ちゃんと伝えて」など、厳しい言葉を投げ掛けながら、決して正解を出さないようにお願いします。

演習 1 -体験 I 伝えられないもどかしさ③



- 身振り限定自己紹介やここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はパフォーマンス役の人がターゲットなので、パフォーマンス役になった数名の方に聞いてみます。

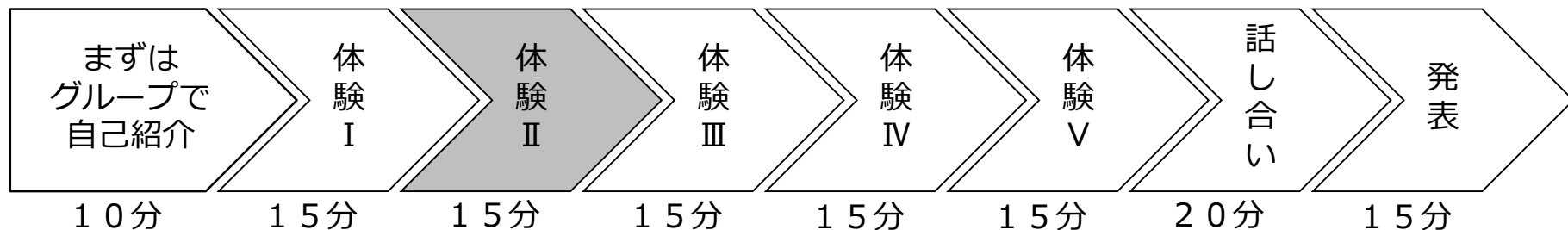
演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛①



- パフォーマンス役の人 1名は前方に集まってください。
- この体験でのターゲットは、パフォーマンス役の人以外のメンバーとなります。
- グループのメンバーに伝えてほしい図形があります。その絵を渡しますので、他のメンバーには見せないようにお願いします。
- 伝える条件は「言葉のみ」です。アクション一切なしでお願いします。
「合ってます」「〇〇さんいい線いってます」など評価に関する発言はNGです。他のメンバーはパフォーマンス役の人から与えられる情報で図形を再現してください。隣の人を覗き見るのはOKですが、真似と相談はNGです。制限時間を設けますので、そこでいったん終了となります。



演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛②

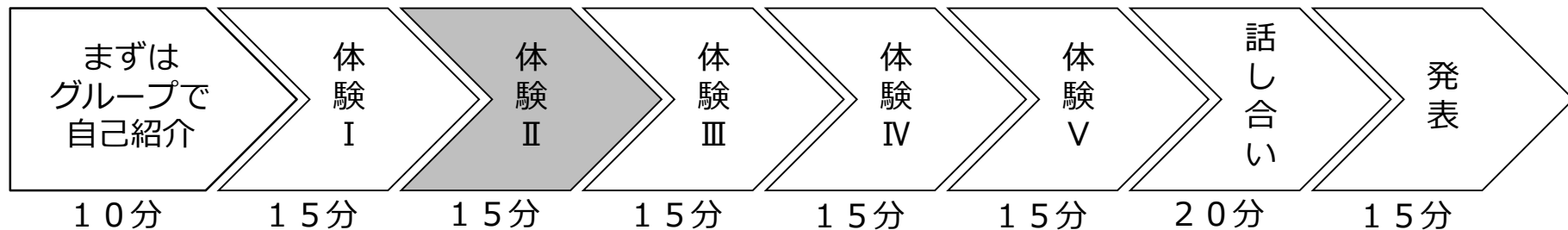


- さて、また再開しますが、ここからはパフォーマンス役の人は、心を鬼にさせていただきます。



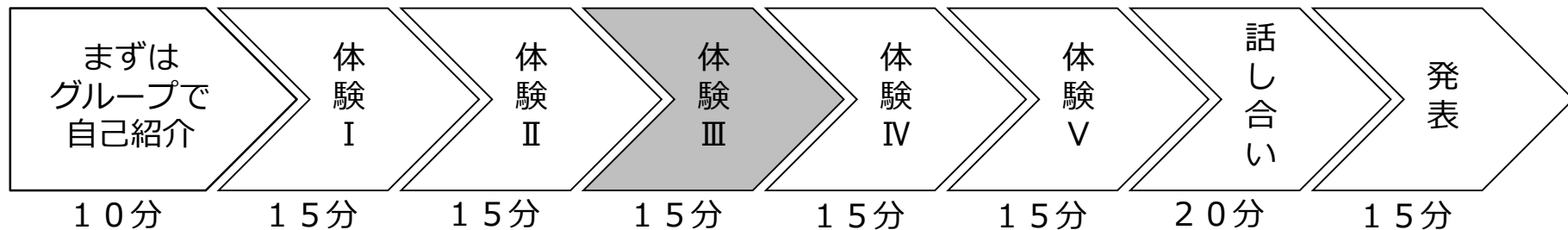
- 自分の指示どおりに図をかけていない人や筆が進まない人に対して「何回言ったらわかるの!」「そうじゃないでしょ!」「ちゃんとやりなさい!」などの言葉を浴びせてください。
- 制限時間を設けますので、そこまで行います。

演習 1 -体験Ⅱ 意味のわからない苦痛③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はパフォーマンス役以外の方がターゲットなので、いくつかのグループの方に聞いてみます。

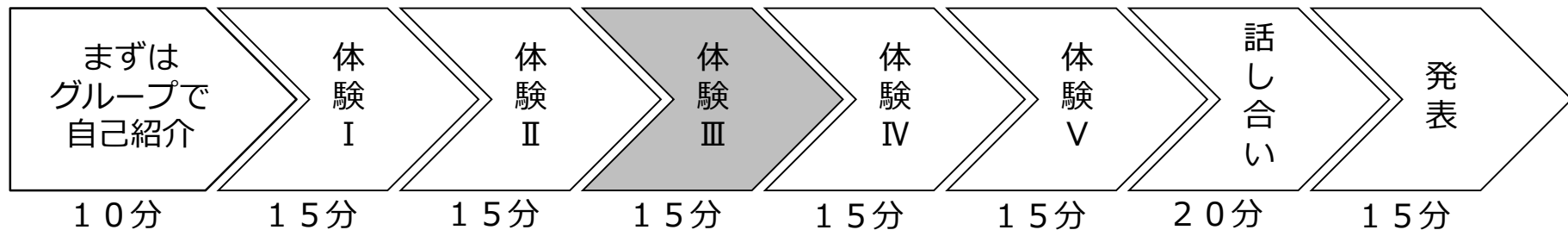
演習 1-体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖①



- この体験は一斉に行います。
- みなさんがするのは、「両足ジャンプ」か、「全力バンザイ」か、「気合いだポーズ (by アニマル氏)」のどれかです。
自分で好きなものを選んでください。
- まずは10回やります。
- その後は、全体指示者の気の向くまま…。
ひたすら追加されるのかなあ…。
回数かもしれないし時間かもしれないし…。
頑張りましょう。やればできる！

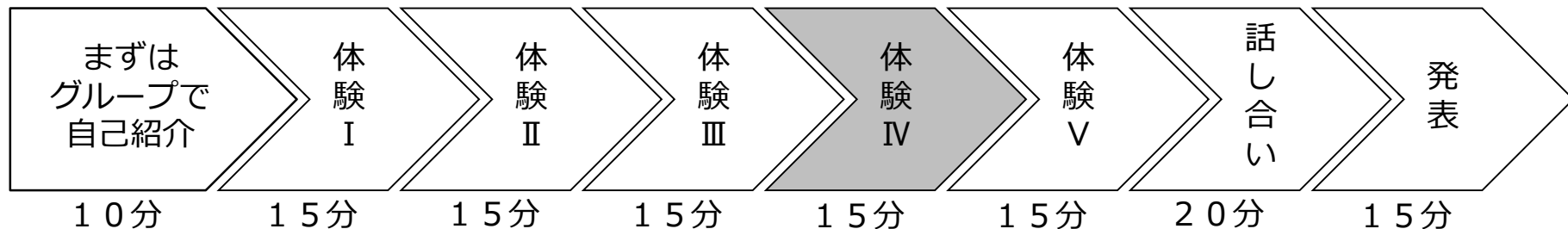


演習 1-体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖②



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験は全員がターゲットになりましたので、いくつかのグループの方に聞いてみます。

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難①

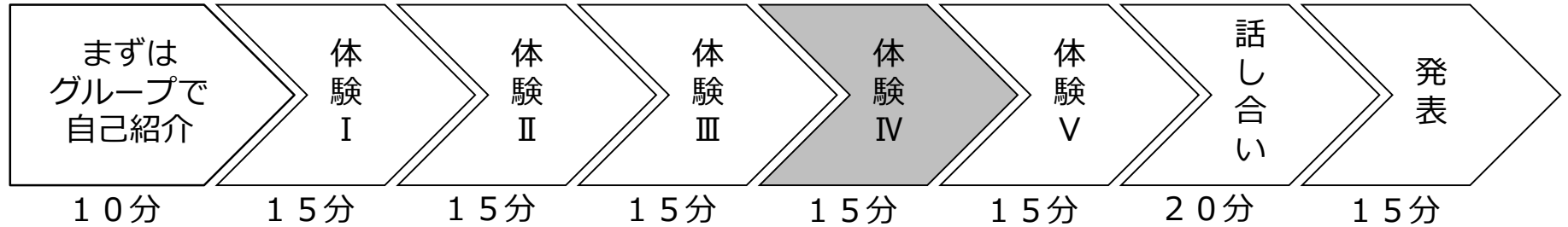


- ここでは2つの体験をします。最初は一斉に行います。

- 魚へんの漢字を見てもらいます。
その中で、3回登場する漢字が二つあります。
それは何でしょう？ すぐに見つけれられますよね。


- では、みなさん一斉にお立ちください。
見つけた人から座っていきます。
見つけられない人はずーっと立っていきましょう。

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難②



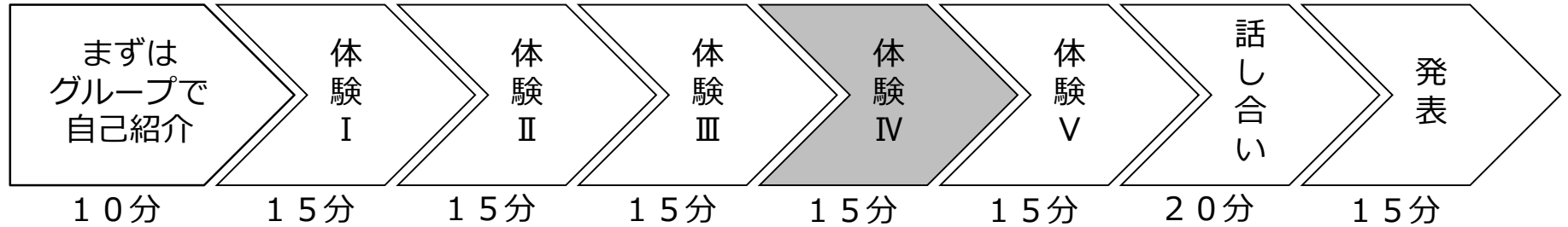
- 続いては、2人組ないしは3人組になります。3人組の場合は、1人vs2人で行います。

- まず、先攻後攻を決めましょう。

-  受け手は、1から順にひたすら数を数え続けます。攻め手は「苦手な食べ物は何ですか？」等の質問をどんどんします。受け手はその都度質問に答え、答え終わったらまた途中から数を数えます。それを制限時間内で繰り返します。時間がきたら攻守交代です。

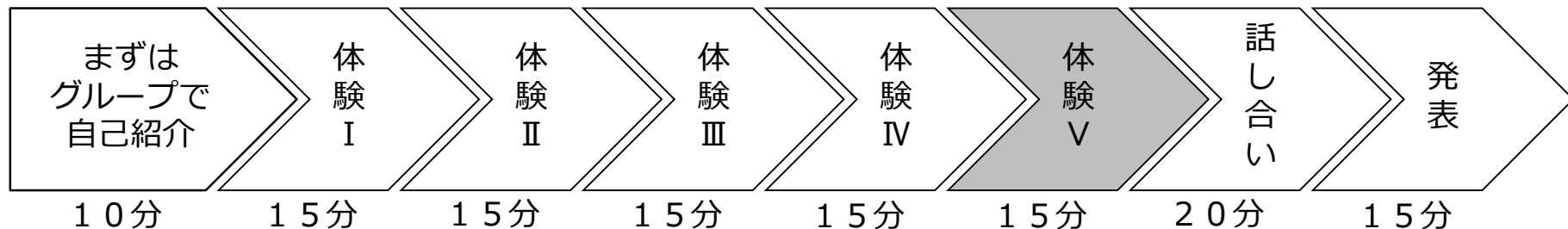
- 受け手になった人が体験のターゲットです。

演習 1 -体験Ⅳ 情報処理の困難③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験は全員がターゲットになりましたので、いくつかのグループの方に聞いてみます。

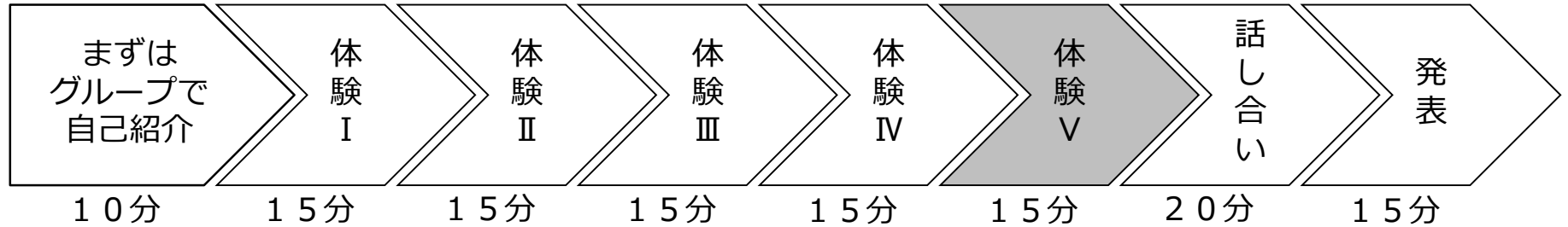
演習 1 -体験Ⅴ 感覚の特異性①



- ここでは2つの体験をします。最初は一斉に行いますが、ターゲットになる方はグループで一人です。次の順にあたっている人がその役を担います。役割は「全体指示者の発する10の単語もしくはフレーズを聞き取る」です。メモをしてもかまいません。
- それ以外の方は、2人ないしは3人組をつくります。「しりとり」か「あっちむいてホイ」か「山手線ゲーム」のどれかを心ゆくまで楽しみます。
- さて、ターゲットになる方は、いくつ聞き取れるでしょうか。
- では、ターゲットになる方以外の方のみなさん、何も気にせず楽しんでください。




演習 1 -体験Ⅴ 感覚の特異性②



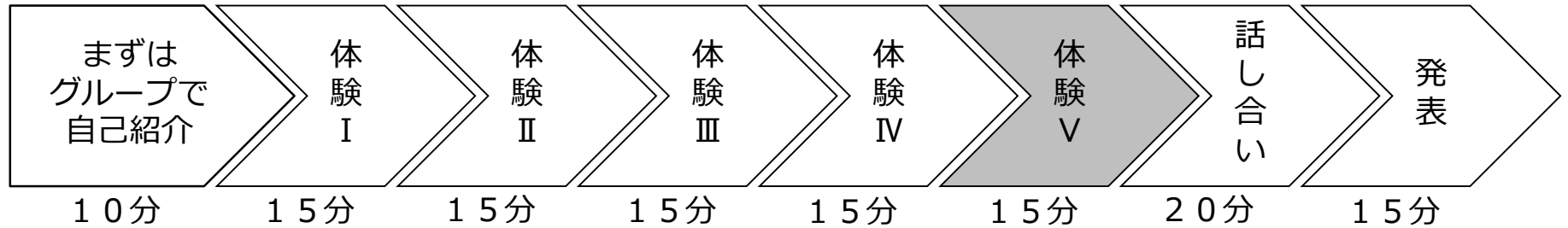
- 2つめの体験は、2人ないしは3人組で行います。
3人組の場合は、1人vs2人で行います。

- まず、先攻後攻を決めましょう。

-  受け手は、目をつぶって手のひらを出します。
攻め手は、ハンカチ・ウェットティッシュ・サンドペーパーの
どれかで手のひらをこすります。
何でこするかはアトラダムにしてください。

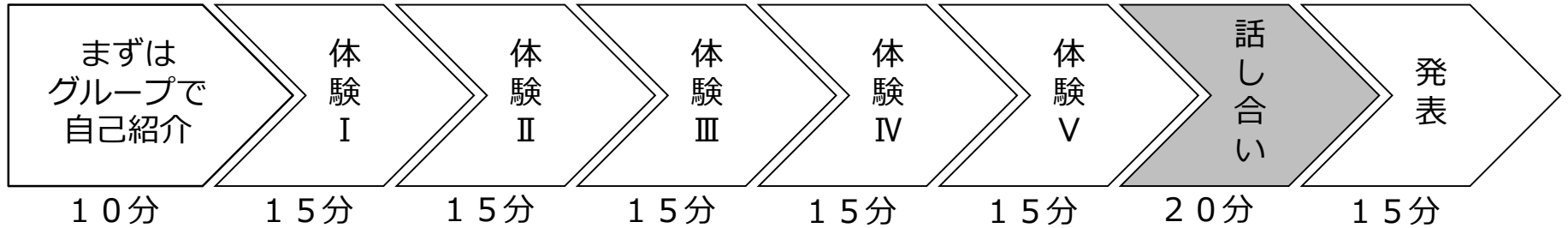
- 受け手になった人が体験のターゲットです。

演習 1 -体験Ⅴ 感覚の特異性③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験は全員が受け手としてターゲットになりましたので、いくつかのグループの方に聞いてみます。

話し合い

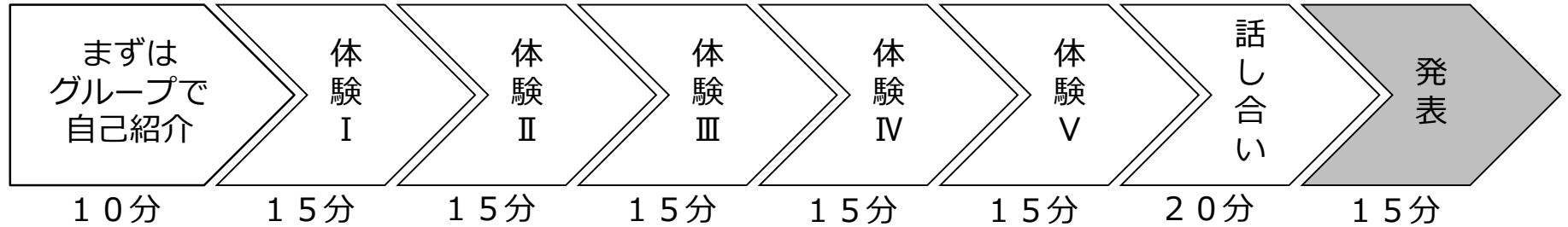


- 順に従って、進行役・記録役・発表役の方を確認し、ワークシートに沿って話し合いを進めましょう。

■ A4「話し合い記録メモ」を使います

話し合い記録メモ	
演習名	強度行動障害の理解④-困っていることの体験
グループメンバー	
1. 体験の中で自分が感じたこと	
2. グループでの話し合いの中で気付いたこと	
3. その他	

発表



- 発表役の方が、グループで話し合われたことを報告します。出された意見や感想のいくつかをお話してください。発表時間は1分とします。
- すべてのグループが発表できないかもしれません。あらかじめご了承ください。
- 話し合いシートは、研修中に掲示しておくかもしれませんので、その点もご了承ください。